

実習 2

家計表とライフイベント表 の作成

1. 事例相談者の説明

(1) 相談者の主訴

家族構成

相談者（47歳・会社員）
妻（43歳・パートタイマー）
長女（19歳・専門学校生）
長男（17歳・高校3年）
次男（11歳・小学6年）
母（70歳・年金受給）

(相談者の来訪は、H25年10月15日)

相談者は地方都市の中小企業で働く勤続25年の会社員。6年前、会社不況で賞与が2年間支給停止した時期に、生活費不足を消費者金融からの借金で補填。

5年前の10月に父死亡。葬儀費用の負担や母の引越し費用負担、長女・長男の進学が続き、返済と借金の自転車操業状態になる。今年に入って、住宅ローンの返済は、7月賞与払い分を先月返済したものの、毎月の返済分は2ヵ月遅れとなっている。

ご夫婦で来訪された初回時の希望は「長男が来春大学受験するが入学金の貯えがない。今年から住宅ローンが2ヵ月遅れているが3ヵ月遅れることはできないので、2ヵ月分借りて遅れを取り戻したい。その2つの資金として120万円を貸付利用したい。叔父に相談すれば、50万円くらいなら工面してくれるとは言っていたが……」。10月末現在、現預金残は10万円しかない」とのこと。

(2) 家族の現状の生活

① 相談者（47歳、会社員勤続25年）

給与は手取りで25万円。

趣味は釣り以外特にない。タバコは吸わず酒も週2回自宅で飲酒する程度。昼は弁当を持参し、妻から受け取る小遣い1万円で、主に珈琲代と、時々外食費用を捻出。

住宅（戸建て）は手放したくないとの意思が強い。社会保険料や税金以外に給与控除はなく会社への借金もない。

②（妻43歳・パート5年勤続）

給与は平均7万円の手取り、賞与はない。美容院には3ヵ月に一回6000円、化粧品代は2ヶ月に一回4000円、雑貨購入月2000円。

③（長女19歳・美容師の専門学校2年）

学費が年96万円かかるため、奨学金月10万円（保証料控除後9.5万円）を受給し学費と教科書代等に充て、自分で管理（収入も支出も家族の家計に反映していない）。自宅通学の交通費や小遣いはバイトで賅っている。

④ (長男 17 歳・公立高校 3 年)

高校学費等 1 万 5 千円、予備校学費 2 万円、通学交通費 1 万円、小遣い月 3 千円。

⑤ (次男 11 才・小学校 6 年)

小学校学費 6 千円、校外活動のバドミントンは月費用 1 千 5 百円、通信教材月 5 千 5 百円で勉強中、小遣いは月 1 千円。

児童手当の受給対象で、月額 1 万円

⑥ (母 70 歳・年金受給)

同居生活費として家計に月 1 万円を渡している。

(1 万円以外に、収入も支出も家族の家計に反映していない)年金収入は月 7 万円、年金担保での借金があり月 3 万円を返済していた。手元に残る月 3 万円で、毎月の医療費、通院費(バス利用、ときにはタクシー利用)、お布施、自分の交際費を賄う。ときどき孫にお小遣いを渡すと、今までは殆ど残らなかった。

⑦ (家族全体の、諸費用)

食費 5 万円、電気代 8 千円、ガス代 1 万 5 千円、水道代 2 ヶ月 1 万 2 千円、固定電話・インターネット 6 千円、携帯電話 2 万 8 千円(相談者・妻・長女・長男)、ガソリン代 1 万円、新聞代 3 千円、生命保険 2 万円、共済保険 1 万円。

車の保険料は月 3500 円。車を 1 台所有し、相談者名義の普通車で 8 年前に購入しローンは完済。

(3) 債務返済の現状

	元金残高	月払い	賞与時	備考(カード以外名義は夫)
住宅ローン	1500 万円	8 万円	18 万円	返済まで 15 年残 2 ヶ月遅れで返済中
A 銀行	150 万円	3 万円		借入時期は H17 年
B 社	100 万円	1 万円		借入時期は H20 年
C 社	100 万円	1 万円		借入時期は H20 年
D 社	80 万円	1 万円		借入時期は H21 年
E 社	50 万円	1 万円		借入時期は H21 年
物品のカード	5 万円	1 万円		妻名義 H20 年
合計	1985 万円	16 万円	18 万円	

2. 「相談時家計表」の作成

(1) 相談時家計表を作成する

相談者との面談で聴き取った「家族の現状の生活」と「債務返済の現状」から、手書きで「相談時家計表」に記入しましょう。

小計欄、当月の収入合計、返済金以外の計、当月の支出合計を計算し、翌月繰越金（収入計－支出計）を算出します。

(2) 相談時家計表の答え合せ

家計表の計算が終わったら、以下に転記してください。

費目	金額（円）	費目	金額（円）
基本収入	円	住居費	円
臨時収入賞与	円	基本生活費	円
援助収入（毎月）	円	通信費・車両費	円
援助収入（毎月以外）	円	教育等費用	円
		教養娯楽費用	円
		その他	円
		保険・税金	円
		（返済金以外の計）	（円）
		返済金	円
当月の収入合計	円	当月の支出合計	円
		翌月への繰越金	円

3. 家族の今後の計画

(1) 今後の計画

現状の家計状態である、「相談時家計表」ができた後、ご家族との家族会議も済んで、今後の計画と家計の見直しを相談室で相談しました（H25年10月25日）。

相談した計画を羅列していますので、月の予算と年間の予算とは区分しながら、家計計画表に反映すべき金額を考えましょう。

① 相談者（47歳、会社員勤続25年）

賞与は7月と12月に支給される予定で、賞与は手取り30万円×2回ある。支出で通勤費月3千5百円の計上漏れがあったので修正する。

②（妻43歳・パート5年勤続）

進学費用がかかるから、そろそろ勤務日数と時間を増やしたい（手取り9万円、扶養控除の範囲）と考えており、職場に受け入れ態勢はある。お小遣い月5千円の計上漏れがあった。

③（長女19歳・美容師の専門学校2年）

来春卒業後の就職活動（市内で通勤可能な就職先を目指す）の費用も小遣いで賄う。成人式には貸衣装で参列予定。車の免許取得は、バイトで貯めたお金で卒業までに自動車学校に行きたいと考えている。就職したら奨学金は自分で返済する。

④（長男17歳・公立高校3年）

自宅通学できる国立大学（文系）を目指す。奨学金は予約済みで、月9.5万円と増額一時金50万円。現在の予備校は月2万円継続。大学は2つ受験する（センター試験2万円、受験料3万円×2回）。H28年1月に成人式を迎える。

⑤（次男11才・小学校6年）

公立中学に入っても継続して部活動したい。中学での部活動費用は、ユニフォーム・くつ・部費等でおおよそ年間7万円程度、遠征試合の費用を含めると年間10万円（月平均8400円）はかかる予定。

⑥（母70歳・年金受給）

年金担保の借金がH25年10月に完済したため、11月から家計への援助を月3万円に増やす。

⑦（家族全体の、諸費用）

- ・食費は主食代が計上不足していたから、月1万円増額する。
- ・被服理美容雑貨も散髪代の計上漏れがあったので月4千円増額する。
- ・携帯電話代は機種代が終了したので、月5千円減額する。
- ・NHK受信料月2千6百円の計上漏れがあった。

- ・年数回の外出、衣料購入、中元・歳暮、正月準備で、年間夏 4 万円、冬 5 万円程度に納まるように相談中。
- ・車検は今年 9 月に済み約 10 万円。主に妻の通勤と買物に利用。賞与で資金捻出。
- ・固定資産税（年 10 万円）は 2 回に分けて賞与の時に支払っていたが、4 期の納期に間に合うようにしていきたい。賞与で資金捻出。
- ・長女は就職した後は、自分で携帯電話代を負担する。次男は中学生まで携帯電話は持たず、高校生になってからの約束である。
- ・生命保険料は掛け捨てに切り替え月 1 万円に減額する。

（２）債務返済の計画

- ・住宅ローン滞納金 16 万円（8 万円×2 ヶ月分）は、キャッシュフロー表を持参して銀行と相談し、月額 1 万円を分割支払いが合意された。月額支払いと合わせて返済することになった。
- ・相談者の債務は、個人再生を方針とし、約 100 万円の返済計画は、月額 3 万円×40 回になる見込み（法テラスへの法律家報酬や送金手数料を含む）。すぐに法律家に積立支払いを開始する計画。

（３）家計計画表を作成する

「今後の計画」と「債務返済の計画」の内容を反映して、家計予算としての「家計計画表」を作成しましょう。

（４）家計計画表の答え合せ

家計表の計算が終わったら、以下に転記してください。

費目	金額（円）	費目	金額（円）
基本収入	円	住居費	円
臨時収入賞与	円	基本生活費	円
援助収入（毎月）	円	通信費・車両費	円
援助収入（毎月以外）	円	教育等費用	円
		教養娯楽費用	円
		その他	円
		保険・税金	円
		（返済金以外の計）	（円）
		返済金	円
当月の収入合計	円	当月の支出合計	円
		翌月への繰越金	円

4. 二つの家計表を比べてみる

「相談時家計表」と「家計計画表」を並べて比較すると、どのような違いがあるか考えてみましょう。

4. ライフイベント表の作成

(1) ライフイベントとは

ライフイベントは、相談者とその家族にとって必要で欠かせない行事や資格取得や進学等の生活設計を表す出費計画です。家計計画表で計上した収入・支出の変化なども、月単位で反映します。

相談者（家族）の生活設計であるため、相談者が家族と相談して作成するものです。ただし、家計収支の解決すべき課題に気付くことができるように、家計相談支援員がサポートしながら作成することが大切です。

ライフイベントで大きな出費を伴う記載に漏れはないか、該当月や金額は妥当かどうかを相談しながら完成させます。

(2) ライフイベント表の記入要領

別紙手書きの「ご家族のライフイベント表」(実習2 次男のライフイベント記入用紙)が、事例の「ライフイベント表」である。

- 1) 収入は、収入の増減や賞与や手当などを、枠外の右の空欄に記入する。
- 2) 支出は、家族ごとに、支出が発生する年月欄に、ライフイベント内容と金額（万円）を記入する。年払いの税金や住宅ローンの賞与払い、季節によって出費する費用など、家族全体の費用は相談者欄もしくは配偶者欄に記載する。
家族の学齢による教育費等の変化などは、該当の家族欄に記載する。

(3) 事例のライフイベント表の作成項目

1) 収入の欄

- ・ 賞与 7月と12月に30万円
- ・ 児童手当 2月・6月・10月に4万円
- ・ 長男の奨学金 H26年6月に、奨学金増額一時金が50万円と、奨学金月額3か月分28.5万円、合計78.5万円。
7月からは、奨学金毎月9.5万円。

(長男の大学進学に伴って、奨学金の入金は学費の支払いとともに妻が家計として管理する)

2) 支出の欄

- ・ 相談者の欄 賞与支給月に、住宅ローン増額10万円
固定資産税は4月、7月、12月、2月に2.5万円。

普通車の自動車税を5月に3.5万円。

住宅ローン1万円上乗せ返済は、H27年2月をもって終了。翌月から8万円に。

車検がH27年9月にある(10万円)。

個人再生の返済は、H29年2月をもって終了。

・配偶者の欄

12月に5万円(歳暮・正月準備・衣料・外食等)、7月に4万円(中元・衣料・外食等)を毎年計上。

物品カード返済1万円は、H26年3月をもって終了。

・長女の欄

成人式がH26年1月にあり、費用は10万円。同年4月は就職のため5万円を計上。同年6月から携帯電話代は長女が負担するため、8000円減。

・長男の欄

H26年1月に大学受験費用2万円、2月に6万円。

3月から大学入学を想定した支出金額は、以下の表を参照。その他は、H28年1月に成人式2万円のみ計上。

		年間金額	月額	支払日
1	入学金	282,000		初年度3月末のみ
2	授業料	540,000		前期4月末 270,000円
				後期10月末 270,000円
				初年度は前期分を3月末支払い
3	入学式用スーツ 靴等購入	48,000		初年度3月のみ
4	パソコン購入	100,000		初年度4月のみ
5	教科書購入	60,000		毎年4月
6	通学定期代	180,000	15,000	毎月(教育費の金額を修正)
7	昼食・飲食代	240,000	20,000	毎月(教育費の金額を修正)
8	合計	1,450,000	35,000	

・次男の欄

中学入学前に、制服・体操着・靴代の購入費が約10万円かかる。中学入学後、毎月かかる教育費は、学費9500円・部活費用8400円(部費・遠征費で年10万円の月額)・小遣い2000円、合計月1万9900円になる。

また、中学生の毎年4月には、学校に支払う学費部活以外の費用として予備費3万円を予算化する。中学2年の10月に、修学旅行で6万円かかる。中学3年生になったら、塾に行くため、毎月の教育費は2万円増える。

・母の欄

H26年10月の父七回忌法要で5万円を計上。

(4) ライフイベント表の完成

実習では、次男のイベントのみ空欄にしています。前ページの下線を引いている「次男の欄」より「実習2 次男のライフイベント記入用紙」に記入して、ライフイベント表を完成しましょう。

ただし、次男のライフイベントにとって、重要なイベント（金額 30 万円）の説明漏れが一つあります。考えて記入しましょう。

(5) ライフイベント表の答え合せ

イベント表が完成をしたら、下記の欄に転記してください。

	時期			次男のイベント内容	金額
1	H	年	月		万円
2	H	年	月		万円
3	H	年	月		万円
4	H	年	月		万円
5	H	年	月		万円
6	H	年	月		万円
7	H	年	月		万円
8	H	年	月		万円

実習2・演習1

ライフイベントには、一般的にどのようなものがあると思いますか？

- 1、 子どもの成長に伴って、以下の学齢の子どもたちには、どのようなライフイベントがありますか。できれば、およその支出金額も記入してみましょう。
 - 1) 中学生・高校生
 - 2) 大学生
- 2、 高齢者夫婦の生活には、どのようなライフイベントがありますか。毎月の生活費以外にかかる支出をイメージしながら記入しましょう。

